佐倉三田会たより　（第４号）

平成１７年５月発行
発行元　佐倉三田会事務局

「新保友紀子リサイタル」を終えて

「文化と歴史の街・佐倉」の一員として文化の向上に貢献したいと言う理念に基づき、5年前の「ダークダックスコンサート」に引続き「新保友紀子リサイタル」を企画し、2005年4月24日（日）、佐倉市市民音楽ホールにて開催の運びとなりました。

出演者として「新保友紀子」ほか3名、そして、演出家・照明というスタッフを揃え、クラシックリサイタルとしては大変珍しい構成であり音楽関係者の注目を集めました。
しかし一方ではお客様が集まるかどうか懸念されましたが、結果は既にご高承のとおり「ダークダックス」のときと同様満席となりました。

“最初お付き合いでチケットを買ったが、次第に引き込まれ、最後は思わず大拍手してしまいました”、“涙が出るほど大変感動しました”、“再度、開催して欲しい”等々、沢山のコメントをいただきました。

開催にあたり、ご協力を頂いた佐倉三田会各位、県立千葉女子高校松籟会の皆様、広告の掲載・協賛をして下さいました二医院、七社様並びに関係者の皆様には、この場をお借りして心から御礼申し上げます。
併せて、今回の企画が佐倉市の「文化の向上」に多少なりとも貢献出来ましたことを、ご報告いたします。

佐倉三田会幹事一同

ニイハオ！　62歳　中国生活体験記

昨年2月末から約六ヶ月間、中国雲南省昆明市にある雲南師範大学に語学留学をした。
渡航前に情報を集め、国内の留学支援機関を通じて留学手続きを済ませ現地に向かった。
日本国内で集めた情報と現地での実際との乖離、学生生活など、これから中国留学を目指している方のご参考になればと思い、体験をまとめてみた。
体験をまとめては見たが、ご承知の通り中国は広大な国家であり、更には東西の経済格差などが著しく、私の見た昆明は言わば「点」の一つである。
従ってこの体験記が中国全てに及ぶものではないことを、予めお断りしておく。
文章の素人のことで甚だ纏りを欠いていることと思うが乞うご寛恕。
ご質問などある方には可能な限り体験をお伝えするつもりなので、文末の連絡先にご連絡をいただきたい。

①　留学生の資格、年齢制限

国内で発行されている留学案内書で留学先を決めた。
学歴は概ね高校卒業以上としているところが多い。
年齢制限については、受入学校によって様々である。
私が雲南師範大学を選んだ理由は年齢制限が65歳までとあったから。ところが、実際入学してみて驚いた。
私より年寄りが結構いる。中には80歳近い日本人留学生がいた。
最初、雲南師範大学だけかと思ったが、昆明市内で留学生を受け入れている他の大学でも、年齢制限は相当いい加減であった。
中国留学を目指す方は、人に聞いたり、日本で出版されている案内書を見て決める方が多いと思うが、年齢制限については必ずしも書かれているとおりではないので、自分の年齢が制限をオーバーしていても、一度現地に確認することをお勧めする。

②　出発前の勉強

入学後クラス分けの簡単な面接があり、それによってクラスが決められる。
一番初歩のクラスは入門クラスであり、中国語の発音から始まる。
しかし、入門クラスとはいえ、教師の使う言語は全て中国語である。
英語は多少通用するが、少なくとも私の所属したクラスの教師は日本語を全く解しなかった。
そんな訳で、渡航前に少しは勉強しておくほうが良い。
特に文法用語や教室で使われるようなフレーズ（例えば、32ページを開けてください」とか「今日の宿題は・・・です」）くらいは暗記しておくべきかも知れない。

③　現地での入学手続き

学校に行って定められた書類を提出し学費を支払う。
言ってみればそれだけのことであるのだが・・・。
通用門を通って構内に入る。留学手続きをする場所を守衛に聞くが分からない。その辺に居る学生に聞く、分からない。案内板を探す、案内板がない。
「聞く」といっても、覚束ない中国語でである。
やむを得ず、また歩いている学生に聞く。何人目かの学生がやっと知っていて教えてくれる。
手続きの担当者は英語が堪能であったのが幸い、ようやく手続きをすます。
大学構内で大声で教科書を呼んでいる中国人が多い。
一種の風物詩である。中には英語の勉強をしている人がいる。彼らに英語で聞けばよかった。　と、後で気がつく。

④　学校での勉強

クラスの人数は様々である。一対一の授業もあるが学費が高い。大体、数人から十数人と不定である。
私の入ったクラスは6名。アジア人3名とヨーロッパ人3名、国籍は日本（私である）、ヴェトナム（女）、タイ（男）、オランダ（男）スペイン（女）、スウェーデン（女）、このような構成珍しいらしい。年齢は20歳から62歳。
ヴェトナム人、タイ人の英語はとても聴き取りにくい。
時が経つにつれ、中国語が共通言語になってくる。
科目はヒヤリング（聴力）、会話（口語）、リーディング（閲読）、文法（綜合）の4つ。一週間月曜から金曜まで（24コマ）。予習・復習にかける時間は人様々だが、私の場合は学力が劣っていたので、一日最低8時間。この位やっても、追いつくのが大変であった。

⑤　滞在場所

入学手続きが終了してすぐ留学生寮に入った。1週間800元。一応設備は揃っているが、暗い、狭い、風呂が出ないこともあるなどなど、とても勉強する環境には程遠い。滞在の長い日本人先輩の世話で不動産業者回りをして10日後に大学から徒歩10分ほどの場所にマンションを借りた。家賃は一ヶ月で800元だから留学生寮の四分の一くらいである。風呂・トイレ・台所付き4部屋。どうやら留学生寮は高いらしい。繁華街のど真ん中で騒音が激しいが、買い物にも外食酒を飲むにも至便。周囲の騒音と差し引きしても十分お釣りがくる。
中国（或いは昆明）での住宅状況は電気・ガス・水道等の設備が貧弱で特に水周りが良くない。又、停電や断水は日常茶飯事らしい。
幸いにも我がマンションでは半年に断水・停電は各一回だけで済んだ。ある日風呂のお湯が出なくなったので家主に掛け合ったところ翌日すぐ修理をしてくれた。
このような家主は中国では稀有のことと友人に言われた。
すぐに修理に来るような家主はなかなかないらしい。
などと偉そうなことを書いているが、全て片言の中国語（昆明弁）、場合によっては筆談でやったことである。

⑥　日々の生活

まず物価であるが、輸入品を除くと驚くほど安い。外食をしても一日三食で100元（日本円1400円ほど）あれば十分である米麺（ビーフンみたいなもの）一杯2元、市内バス1元、ビール大瓶は地元産で5元、中国の銘柄品である青島ビールで6元。しかも、何でもあるし品質も悪くない。
ガイドブックなどでは「物はない、質も悪い」としてある。
とんでもない話しである。私は自炊中心であったが、市内にはウオルマートやカルフールがあり何でも揃うし、近所には自由市場（向こうでは農貿市場という）があり、見て回るだけで興味津々であった。

⑦　パソコン事情

ネットカフェは沢山ある。料金も非常に安い。しかし、余り使い勝手が良いとは言えない。誰の説明も受けずに直ぐ使いこなすのは相当難しい。
日本から自前のPCを持っていく場合でも立ち上げる時既に当地でパソコンを使いこなしている人に相談したほうが無難である。
なお、留学先の学校には大体パソコンルームがあり、勿論有料であるが、日本語ソフトがインストールしてある場合が多いので便利である。
それほどPCを多用しない場合には、学内のPCでもOK.
但し、利用する学生が多いので自分の番にまっわて来るのに時間がかかるのと、日曜日はオープンしていない、という欠点がある。

（まとめと感想）

1. 出発前に授業で使いそうな単語や会話は覚えておこう。

2. 日本人の友人を早く作ろう。何かと役に立つし、相手も日本から最近来た人から情報が欲しいので喜んでつき合ってくれる。

3. 留学生寮より学校の近所に部屋を借りたほうが安くて快適。
出来ることなら入学手続きの10日前くらい前に現地に到着して部屋探しをするのがベストである。
学校の近所の日本料理店（余程田舎町で限り、日本料理店はある）に行けば滞在の長い日本人がいるから彼らに相談しよう。

4. 中国人の友人を作ろう。語学上達のためでもあるが、中国人・中国を知るためにも必要。中国では相互学習（中国語では互相学習という）と言って、中国人から中国語を習い、中国人に日本語を教える方法である。
ホームステイするのも良い方法であるが、文化的なギャップがあり中国人家庭に溶け込むのが大変らしい。

5. 中国には何でもある。ブランドしか身に付けないというのなら別だが、拘らなければ何でもある。しかも輸入品でなければ日本よりはるかに安い。日本から重量超過料金を払って重い思いをして荷物を持っていく必要はない。

6. 辞書は電子辞書が引くのに一番時間がかからない。
最近では音声つきの辞書も出ている。

7. 参考書は中国で発行されているものが沢山あるが、日本人には使い難いと思うので日本から用意していったほうが良い。しかし勉強が進んでいくうちに中国で出版された辞書も使えるようになってくる。
参考書も日本で沢山発行されているが、ご照会いただでればお答えします。
なお、神田神保町には中国専門の書店が二店ある。
東方書店と内山書店でたいていのものは揃う。

8. PCを持っていく人は中国語ソフト（ライター7など）を用意しておけば便利である。辞書機能などが付いており勉強の役に立つが、辞書を引く時間を考えると電子辞書もあったほうが良い。
中国語ソフトは前述の書店などで購入できる。

9. 中国人のマナー（吃驚して、嫌にならないで）
街中で痰を吐く、手鼻をかむ、ゴミは捨て放題、交通機関にに乗るとき列を作らず争って乗り込む、交通規則を守らない等々我々日本人の目からみると中国人のマナーは最悪・・・と感じる人が多い。
更には、店員の態度が宜しくない（ところが多い）。
しかし、考えてみると日本人もかつては痰を吐いたり、手鼻をかんだり、ゴミだって平気で捨てていた。第一「手鼻」なんて熟語？があるのは、手鼻をかんでいたれっきとした証拠。
店員の態度が良くないのは、店が国営であった後遺症で、改革解放後、民営の商店が増加し優れたサービスを提供している店舗も沢山出来てきた。
マナーの点では、中国は発展途上国であろう。
現在、中国ではインターネットた急速に増加しており、インターネットを経由して国際的に通用するマナーを身につけるであろう（と期待する）。

10. 日本人は漢字が分かるから中国語の勉強に有利か。
漢字を知っているのは確かに有利である。しかし、知っているからどうしても漢字に頼る傾向がある。
ヒヤリングや会話には漢字を知っていることはほとんど役にも立たない。時には邪魔にすらなる。
今、世界中で漢字が通用する国は中国本土、台湾および日本。かつて漢字を使っていた韓国やベトナムは現在使っていない。言うまでもなく西欧の人々も漢字は分からない。
こういう人にとっては漢字は字でなく絵である。
漢字が分からない人は頭の中に漢字を浮かべることなく、聞いたり、喋ったりする。だから会話とヒヤリングは日本人より上達が早い。

以上

2004. 6. 30　雲南省中甸にて。チベット寺院

滞在中始めての旅行をした時の写真。中甸は昆明の西北に位置し少数民族（チベット族）の居住地。
富士山と同じくらいの高度がある。

鈴木司朗（S40商卒）
☎　043-461-5820
e-mail　jeuc@catv296.ne.jp

ご質問のある方は上記にご連絡下さい。
ときどき日本に居なくなることがありますが、その場合にはご容赦下さい。